

■ 矢守の外観

集落の北西部、河川改修前の安壺川と竹藪で取り囲まれた屋守城の郭が見えます。現在も杉立家の屋敷が残されています。土塁の跡は藪になり、盛り土ほとんど失われています。

安壺川を挟んで南東に藪が見られますが、周囲には明らかに土塁と見られる土盛りが残っており、恐らくこの藪は別の屋敷跡であったと思われ、賀藤氏の館跡ではないかと思われます。賀藤氏は杉立石見守が矢守に配される前から島川・矢守の在地領主であったようで、金剛輪寺に残る「下倉米銭下用帳」にも矢守賀藤氏の名が記されています。

杉立氏が矢守に入府するまでは六角氏に仕える矢守氏・賀藤氏が在地豪族として居たようで、屋守城が山城として築かれた時に杉立の家臣になったと由緒書には記しています。

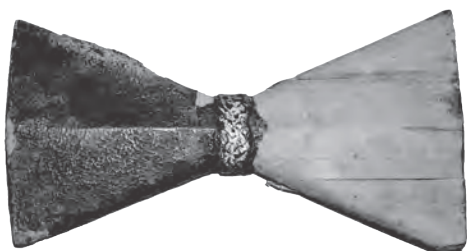


▲ 矢守集落と屋守城（昭和 48 年空中写真）

■ 中世末の矢守

愛荘町域には多くの中世城跡が残されています。しかし、石垣を積み、城壁を築き、天守閣などの櫓がそびえ立つ城郭とは規模が異なります。地域の荘園領主や在地土豪が築いたもので、周囲に堀を廻らし、土塁を築き、その郭の中に屋敷を建てたものです。

矢守の周辺には、島川城・畑田城・平居城・安孫子城などがあります。これらの城主である土豪（武士）は、戦国大名である六角・京極・浅井のそれぞれの傘下で、時々的情勢によって主を変え、領地を維持してきたものと思われます。しかし、文亀 2 年（1502）、六角氏は有力被官である伊庭氏と抗争し、六角氏内の均衡が崩れ出します。永禄 3 年（1560）には同族の高野瀬氏（肥田城主）が浅井方につき、野良田の合戦が勃発、六角方は浅井方に破れ、加勢していた在地の小領主は領地を捨てて逃散してしまいます。杉立氏もその中の一つでした。野良田の合戦の後、六角氏の山城であった屋守城は浅井の大軍に攻められ、城主杉立石見守親子は戦死してしまいます。



◀ 杉立家に伝わる槍

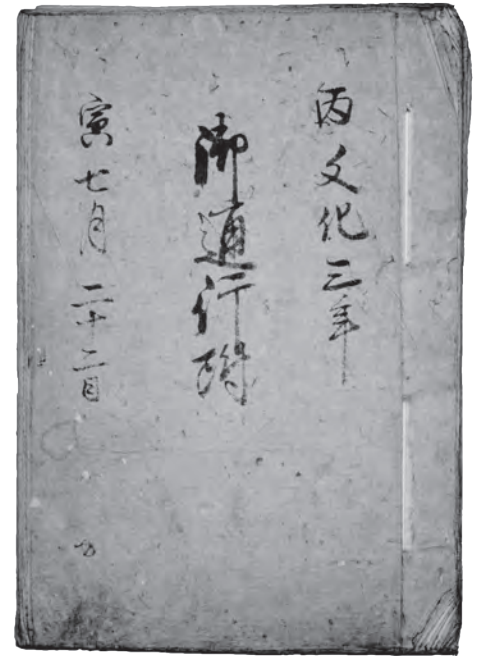
戦国時代の武具かどうかは分かりませんが、杉立家には大事に槍が保管されていました。柄は途中で折れており、家紋などは印されていません。

武士としての誇りを後世に伝えるものです。そのほか、杉立家の系図や由緒書が残されています。

■ 屋守城と杉立氏

和談によって屋守城に帰還した杉立氏ですが、豊臣秀吉により天下が統一されると、在地土豪を帰農させる手段として刀狩が行われ、大名に属さない領主たちは二つの選択を余儀なくされます。父祖伝来の領地を守るために刀を鋤鋤に持ち変えて帰農するか、大名に仕官して土地を離れるかの選択を迫られることになるのです。これは近江に限らず、全国的に肅清が行われ、在郷武士は帰農していくのです。杉立氏も本家は領地の所有を選択して、刀を捨てて大庄屋になったと見られます。

主要街道は江戸に上る大名や寺社、公家などの往来が増え、修理や毎日の管理が必要となり、彦根藩は地元の有力者である元領主の大地主、杉立氏に御掃除小頭という街道整備の役職を与えます。小頭の杉立氏は「御通行附」という通行帳に日々の通行者を記録し、管理していました。大名たちは通行直前の街道清掃に対して、謝金を送っていたことも記述されています。



▲ 御通行附

■ 掃除小頭杉立氏

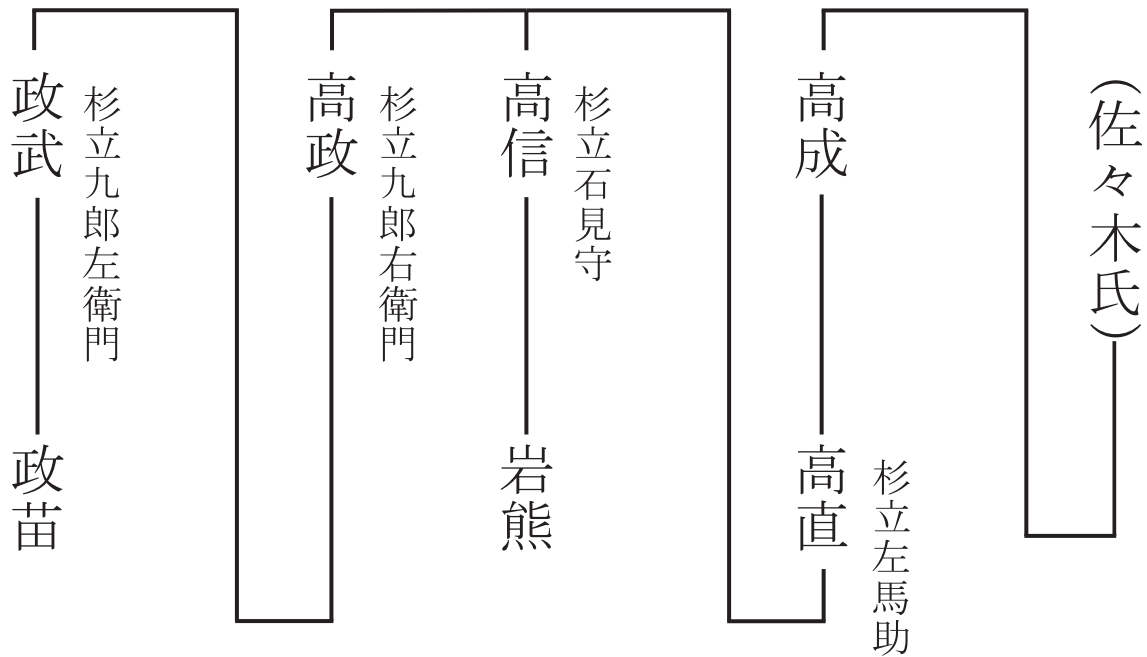
五街道のひとつである中山道は、江戸と京を結ぶ主要道であり、幕府が管轄していました。しかし街道の実質的な管理においては諸藩や街道沿線の集落に任されていました。宿場間を距離で分割して村々に割り振る掃除丁場が決められ、掃除・路肩の修復を行いました。街道沿いには野晒しや、獣の死骸、ゴミが捨てられ、路肩は大雨が降ると崩れ、参勤の大名や御用役人の通行に見苦しいとしてその管理が徹底されました。しかし、各藩はそれ以外にも街道見廻りの役人を配置し、常時巡廻させます。これが「掃除小頭」という役職であり、彦根藩では五人前後の掃除小頭が決められ、その配下に80人程の配下の中間を置いていました。掃除小頭は身分は農民ですが、名字帯刀を許されており、地域の大庄屋など有力者から選ばれていました。寛政5年（1793）の記録には、田部喜太夫・杉立十蔵・林戸十郎・新楽儀平太・増田左平太の五人の小頭名が見られます。展示には小頭役の請状、役職の誓約書、交代の願書きなどの文書を展示しています。



◀ 陣笠

杉立氏は江戸時代に入ると、大庄屋（複数の集落をまとめる庄屋）として村を治めましたが、彦根藩は特別な役職を与えます。街道見廻りの際に使用したと見られる陣笠が杉立家には残されており、家紋の四つ目結が天部に印されています。もとは佐々木源氏の紋であり、杉立氏が佐々木の流れであることも裏付けています。他に、農民でありながら脇差を持つことを許され、彦根城に登城することも許されています。恐らくはその脇差であろう刀の鞘が杉立家には残されています。

◀ 杉立氏系図抜粋



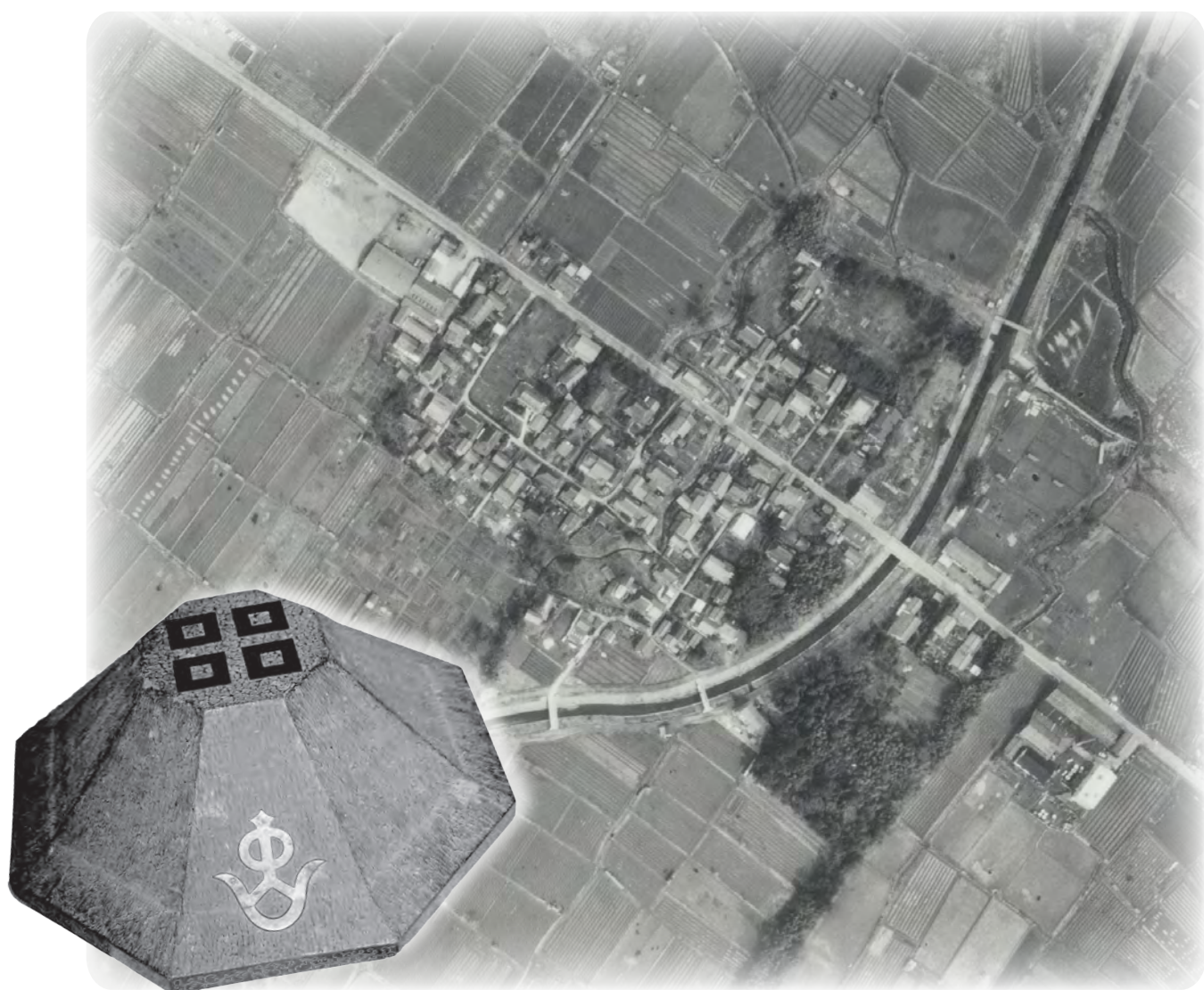
■ 列品一覽

番号	資料名	年	所蔵
1	矢守付近空中写真	昭和 48 年	愛荘町
2	杉立氏系図	年不詳	個人蔵
3	杉立氏由緒書	年不詳	個人蔵
4	「覚」街道掃除の覚	寛文 12 年 (1672)	個人蔵
5	「差上申請状之事」掃除小頭請状	元文 2 年 (1737)	個人蔵
6	「差上申手形之事」街道掃除誓約書	寛文 12 年 (1672)	個人蔵
7	「乍恐以書付御願申上候」役儀御免の願書	寛政 5 年 (1793)	個人蔵
8	「御通行附」	文化 3 年 (1806)	個人蔵
9	陣笠及び笠箱	年不詳	個人蔵
10	槍	年不詳	個人蔵
11	脇差 (白鞘)	年不詳	個人蔵

第24回ふるさと展

屋守城と 御掃除小頭

- 展示資料解説書 -



令和3年4月10日（土）～5月23日（日）

愛荘町立歴史文化博物館